

「聖霊を受けましたか？」
使徒言行録 19 章 1－10 節

パウロの第三次伝道旅行は、エフェソの町を拠点として伝道が展開されました。このエフェソでは、パウロの前にアポロという人が熱心に伝道を行っていました。アポロは、エフェソにおいてはパウロの前に、そしてコリントにおいてはパウロの後に伝道をした人です。このアポロも、初代教会において大きな働きをした人でした。

しかし、この時のアポロには大きな欠けがありました。彼は、イエスさまを信じ、イエスさまが旧約の預言したメシアであることを聖書に基づいて説いていたのですが、ヨハネの洗礼しか知らなかったというのです。

では、ヨハネの洗礼とは何でしょうか。洗礼者ヨハネは、神の怒りを免れるために、やがて来られる救い主の到来に備えて、神の救いにふさわしく悔い改め、神の方を向き直りなさいと語りました。その悔い改めの印としての洗礼を授けていたのです。それがヨハネの洗礼です。アポロは、この悔い改めの印としての洗礼しか知らなかったのです。ヨハネの洗礼しか知らなかったアポロの語るメッセージは、「悔い改めよ、さもないと神さまの裁きによって滅びる」というところにとどまっていたのではないのでしょうか。彼はイエスさまのことを雄弁に語ることは出来ました。しかし、何かが欠けていたのです。このアポロに「欠けていた何か」とは、何だったのでしょうか。それは、「主イエスの名による洗礼」であり「聖霊」でした。なぜなら、パウロがエフェソで出会った 12 人の弟子たちもヨハネの洗礼しか受けておらず、それゆえ、聖霊を受けておらず、聖霊を聞いたこともなかったと記されているからです。

イエス・キリストの名によって洗礼を受け、聖霊を受けた者に与えられていること。それはすでに罪赦され、救われている保証を与えられているということです。それゆえ、私たちは平安に、喜びをもって、イエス・キリストを証ししていくことができるのです。けれど、アポロにはそれが欠けていました。また、聖霊を受けていないと言っていた弟子たちにも、この救われた者の喜びと確信が欠けていたのです。

それゆえ、パウロは、彼らに「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と尋ねたのです。すると彼らは「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません。」と答えました。このことは、「聖霊の存在自体があるかどうか聞いたこともない」ということではなくて、今、聖霊が降っている、その恵みの時代が到来していることを知らないということです。救いは未来に起こるのではなく、今この瞬間に起こっている。もう既に、私たちは、神さまの救いの恵みの中に入れられている、その喜び、その確信が持てていないということです。しかも、ヨハネの洗礼は悔い改めのしるしでした。言ってみれば人間の側が変わることの証しでした。それに対して、イエス・キリストの名による洗礼は、神からの恵みに与るということです。聖霊なる神さまが私たちの上に臨んでくださり、聖霊なる神さまが私たちに救いの出来事をただ与えてくださる、このことは、私たちの熱心や努力によって手に入れられるものではありません。それを知らなかった彼らは、信仰も自分の熱心や努力というところを超えられなかったのではないかと思うのです。

けれども、その彼らが、主イエスの名による洗礼を受け、聖霊を受けた時、神さまの救いの御業をほめたたえ、感謝し、またそれを証しするようになったのです。聖霊によって私たちは、イエス・

キリストによる神さまの恵みを体験し、主イエスとの交わりに生きる者へと変えられ、その恵みを感謝し、賛美し、証しする者とされる。それが聖霊を受けている信仰者の姿です。

私たちが歩いていくのは、聖霊の働きの中で歩む道です。聖霊が私たちの内に住んでくださらなければ、罪の道を歩んでしまう私たちです。不平不満ばかりを口にする私たちです。本当の喜びを知ることのない私たちです。しかし、そんな私たちをも、神さまは愛され、聖霊によってイエス・キリストの十字架と復活による罪の赦しの恵みの中に歩ませ、感謝と賛美と喜びに生きる者へと変えてくださるのです。

それゆえに、私たちは、自分の力、自分の努力に頼るのではなく、主イエス・キリストによって一切の罪を赦された者として、聖霊の導きにすべてを委ねるのです。その聖霊の導きの中で、ただ神さまの栄光を求め、主イエス・キリストを愛し、神の言葉に従うことを何よりの喜びとする。だからこそ、私たちは、確信を持ってイエス・キリストを伝えることができるのです。アポロのように、聖書に詳しくも雄弁でもないかも知れません。けれども、聖霊をいただいている者として、イエス・キリストの救いを証ししていくことができるのです。“私は、このようにしてイエスさまに出会い、救っていただいた。今、私があるのは、キリストの恵みによるのだ”と、真実に証しすることができる。そして、その証しをも用いて、神さまは宣教の御業を進めてくださるのです。